

編 集 後 記

『言語と文化』第8号をお届け致します。

2005年4月1日から岩手県立大学は、公立大学法人岩手県立大学となりました。それにともない、大学機構が大きく変わり、『言語と文化』の発行母体でありました言語文化教育研究センターも廃止になりました。しかし、これまで積み上げてきた7年間の実績をここで絶やすことはできないという旧センター構成員の強い意志があり、教育・学生支援本部と協議を致しました。その結果、発行母体の名称を言語文化教育研究会と改め、また、紀要の名称は従来通り『言語と文化』として、刊行を続けることができるようになりました。

さて、大学の独立行政法人化を始めとして、大学の行政機構は大きく変わろうとしています。一方大学全入時代を間近に控え、大学の教育環境も以前とは異なってきました。このような新しい状況に対処すべく、教員は効果的な教育方法を求めて日夜研鑽を積んでいます。2005年9月8日・9日の両日岩手県立大学に於いて、第55回東北・北海道地区大学一般教育研究会が開催されたこともあり、投稿論文は授業改善の実践をもとにした研究が目立ちました。なお、『言語と文化』の伝統となっています文学を扱った論文の投稿もありました。

来年度、再度旧センター構成員の大幅な所属変更が予定されていますので、今年度は過渡期の一年となりました。これまでの実績が生かされ、『言語と文化』が発展的に継続されることを願っております。

(佐藤智子)